

山口茜さん 応援🇯🇵 レポート

第43回全国高等学校選抜バドミントン大会

2015年3月28日(土)

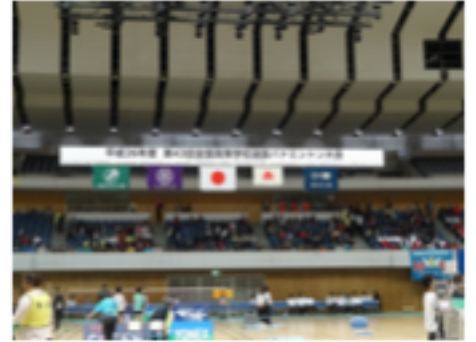


高校バドミントン界、頂点への戦いだ

高校選手が目指す全国レベルのバドミントン大会は年2回、インターハイと全国高等学校選抜。地域ブロックを勝ち抜いてこなければならない全国高校高等選抜は、各県から選手が出場す

るインターハイよりも強敵が多いともいえる。出場は、女子シングルス19名、女子ダブルス19組のみ。

山口茜さんの挑戦を見届けに、いざ札幌へ。



北海道立総合体育センター
北海きたえーる

まずダブルス。3位の去年を超えたい！

前日までにダブルス・シングルスとも順調に勝ち残った山口さん。28日はダブルス準決勝からのスタート。昨年3位となった時と同じ鈴木咲貴さんとのペアでの対戦相手は、青森県の青森山田高校だ。静かな緊張から始まった試合は1点差での攻防の試合展開となり、ほかの試合が

終了したあともこの1試合だけが続くという熱戦。

2-0と山口さん鈴木さんペアが試合を制して、決勝へと駒を進めた。「ギリギリ勝てました」とは、勝山高校小林監督の弁。

続いてのダブルス決勝の相手は宮城県の聖ウルスラ英智高校ペア。するすると点を稼ぐ山口さ

ん&鈴木さんペア、いつの間にか2ゲーム終了。日本一の高校生ペアが決定した瞬間にも、山口さん・鈴木さんはガッツポーズなどで感情を表現したりはせず、さわやかな笑顔だ。

去年の3位を超え、見事栄冠を掴んだ山口さん&鈴木さんペア、おめでとうございます！



小柄な山口さんなのに、コートすみずみまで手が届く。このしなやかさを、応援で見たい！

注目のシングルス、山口さんは2連覇なるか

いよいよシングルの試合が始まった。

準々決勝は愛知県名経大市邨高校の貴虎さんと対戦だ。1ゲームを危なげなく先取したあとの2ゲームめは延長戦になったが、2-0で試合終了、山口さんは準決勝へ進出した。

時はすでにお昼時。“試合が連続するときのインターバルは20分”しかない。ダブルスで2試合を勝ち、シングルスにも出場する強者には、他の選手よりも圧倒的な体力と精神力を求めるトップアスリートの世界だ。

4試合めとなる準決勝の相手は千葉県西武台千葉高校の荒木萌恵さん。山口さんは1ゲームめを僅差で落とし、2ゲームめもなかなかシャトルがネットを超えて行かない……。昨年の優勝者が破れた瞬間、観客席もどよめいていた。



ダッシュと跳躍を繰り返すバドミントンは、過酷なスポーツだ。
(経験はないけれど、絶対そう。
本気で20回飛ばうとしても、15回もできません)

今日の試合の悔しさを、次はリベンジ！

「1日でダブルスとシングルスで勝ち抜くのは、確かに過酷なスケジュールです。でも今までも、トップ選手たちはここを乗り越えてきたのです」とはいえまだ高校2年生。こういう経験をして、山口選手はもっと強くなっていくはずです」(全国高等学校体育連盟 幹部談)

試合直後に疲れた様子を見せながらも、しっかりとマスコミのインタビューに答えていた山口さん。

財団にもコメントも寄せてくれた。「ダブルスは優勝できたので、自信になった。この自信を、夏のインターハイでも積極的に攻めることで活かしたい。シングルスでは負けを受け止めて、夏のインターハイでリベンジできるようしっかりやって行きます。」

負けた悔しさを、次の結果で返すと答えるたくましさ彼女の強さ！山口茜さんのこれからがますます楽しみです。



負けたのに、囲み取材を受ける注目選手の山口さん。こういった経験さえ、世界を目指すなら必要なのかもしれない

3月28日の試合結果

ダブルス

準決勝	山口 茜・鈴木 咲貴 勝山	2	21 - 18 21 - 19	0	曾根 夏姫・安田 美空 青森山田
決勝	山口 茜・鈴木 咲貴 勝山	2	21 - 11 21 - 12	0	徳能 あすか・保原 彩夏 聖ウルスラ英智

シングルス

準々決勝	山口 茜 勝山	2	21 - 14 25 - 23	0	貴虎 世奈 名経大市邨
準決勝	荒木 萌恵 西武台千葉	2	21 - 18 21 - 10	0	山口 茜 勝山